

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和6年4月26日号

わからないから かんがえる しっばいするから おもしろい

校長 埴岡 靖司

児童数 48 名、5学級で始まり、3 週間が経ちました。新しい学年での学習を通して、思ったことや感じたことを先生に伝えることが、先生と一丸となった学びのスタートとなります。

梅原小学校の学校の教育目標は、「豊かな心で たくましく生きる 梅原の子 - 自己有用感を高め、梅原の子としての自信をつける-」です。本年度のめざす学校像は、「どの子ども自分らしく伸びる学校」「職員が育つ学校」です。「授業づくり」「学級・学校づくり」「生活づくり」の3つの柱で、目標達成に向けて進めていきます。

この3週間の様子から、毎日の学校生活についての学び方をまとめました。梅原小学校の「まなびのデザイン」です。

わからないから かんがえる しっばいするから おもしろい こまったときほど か
おをあげ はなしあうから たのしいんだ
わからないことが ふえたよ わかることが ふえたよ

梅原小学校では、「わからない」は、マイナスではありません。「わからない」から、考えることができるのです。だから、学習や活動が終わった後に、「わかった。」とともに、「わからないことがふえた」という声も素敵な姿なのです。わからないからこそ、「よしっ、考えよう！」と、次の学びがスタートできるでしょう。

「わからない」「わかる」をたくさん集めて「考えてみたい」ことに変えていく「学ぶための、からだづくり」が、新しい学年の学びの第一歩です。「わかる」とともに、「わからない」をたくさん集めてほしいと願っています。

そして、「学び」の中で、「正解じゃないとだめだ」と考えずに、「失敗するからおもしろい」と考えてみましょう。そう考えることで、失敗は失敗で終わらず、価値ある「次の学び」に変わります。正解だけに意味があるのではなく、思うこと、考えること、行動すること、探究することを続けることが、梅原小学校の「まなびのデザイン」になってほしいと願っています。

だからこそ、「こまったときほど かおをあげ」て、意気揚々と学びに向かい、学校の仲間とともに「はなしあうから たのしいんだ」につなげてほしいと思います。

梅原小学校での学習や活動のスタートは、「わからないこと」に注目して「考えてみよう」とする「学びの場」をひとり一人が楽しむことです。学校では、ひとり一人が「わからない」をたくさん集めている姿を見たいと思います。家庭でも「わからない」をたくさん集めている姿を見てください。そして、「かおをあげて」「はなしあう」楽しさを感じてほしいと願っています。

<4月26日PTA総会の話>

